福井・福井城跡

1 所在地　福井市大手一丁目
2 調査期間　一九九六年（平8）九月～一九九八年九月
3 発掘機関　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
4 調査担当者　本多達哉・河村健史・國重佐夜子
5 遺跡の種類　城郭跡・城下町跡
6 遺跡の年代　弥生時代中期～一三世紀・一六世紀末～江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

この調査はJR福井駅付近の連続立体交差事業、及びその側道の改良工事に伴うものである。遺跡は福井平野の中央部、足羽川の北側に位置する、弥生時代から近世までの複合遺跡である。弥生時代には、土坑や溝が若干ある。平安時代には、大規模な掘立柱建物や木組みの井戸があり、井戸から「職」と書かれた墨書土器が一点出土している。一三世紀代には、素掘りや曲物製井筒をもつ井戸が一〇数基ある。

（福　井）

調査地は、江戸時代には福井城の東方、三ノ丸外の二〇〇石～四〇〇石クラスの武家屋敷地に相当する。数多く残る城下絵図によると、一七世紀初頭（慶長頃）には一部空閑地も残るが、一七世紀中～後期にはほとんど武家屋敷が建て込む状態となる。また、屋敷地割は時期により変化することが絵図・遺構から確認される。

遺構は、土坑（ゴミ穴）・井戸・上水道施設や、砂利敷道路・堀などが検出された。遺物は、伊万里焼の入らない時期から一九世紀までの江戸時代全般にわたる陶磁器がみられ、漆器椀などの木製品の量も多い。

木簡が出土した遺構は、一九九七年度調査では、堀・井戸（三六一）・石組みの排水施設（三七五）・江戸時代に埋め立てられた谷・土坑（三七〇・三七七・三七九・三八一・三八五・三八六・五〇一・五三五・六〇四・七九一・八〇一・八〇四・八〇五・八〇八・八二五・八二七・八二八）である。このうち、五〇一と七九一が近代、堀と三七〇が一九世紀、三八二と八〇四が一八世紀、三七七・三七九・三八五・三八六・五三五・六〇四・八〇一・八〇五・八〇八は一七世紀代である。この中で特にゴミ廃棄土坑の五三五からは二五点、八〇五からは一五点、八〇八からは二一点の木簡が出土している。五三五からは魚や動物の骨も大量に出土している。

出土木簡の総計は約一〇二点にのぼるが、今回はこれまでに整理

できた五二点の木簡について報告する。

8　木簡の釈文・内容

井戸三六一

(1)　□□□□　(横材)　(25)×(76)×2　065

土坑三七〇

(2)　「□」　84×(23)×3　021

石組排水施設三七五

(3)　「沢伝右衛門」　135×15×2　051

土坑三七七

(4)　「〈納四斗入」　98×17×3　032

土坑三七九

(5)　・「□□□□」　99×11×4　011
　　・「□□　」

(6)　・「板垣村孫兵衛」　105×18×3　011
　　・「納四斗入　」

土坑三八二

(7)　「□」　175×28×7　051

土坑三八五

(8)　〈上白米」　(111)×21×4　032

土坑三八六

(9)　・「板垣村宗右衛門」　106×19×3　011
　　・「板垣村宗右衛門」

(10)　・「安田村藤兵衛」　81×14×3　011
　　・「安田村藤兵衛」

土坑三七七・四〇六

(11)　・仁右衛門」　(51)×21×2　019
　　・□四斗入」

堀

(12)　「□井□」　101×(24)×3　011

(13)　□□　(横材)　(33)×(161)×2　065

谷

(14)　・「〈安田村」
　　・「〈与介　」　72×18×2　032

土坑五〇一

(15) イトナンテン」 (104)×20×4 051

(16) ・「大いレン　」
・「ソデカくし　シロ」 103×18×2 051

(17) 「千年そう」 184×34×2 051

土坑五三五

(18) 「進上鯛弐ツ〔相沢徳右衛門カ〕□□□□□」 135×19×2 051

(19) ・「山室村　」
・「里右衛門」 80×20×2 011

(20) ・「〈莇生田村」
・「〈四斗足米」 79×20×3 032

(21) ・「〈山室村　」
・「〈□□〔六郎カ〕右衛門」 81×20×2 032

(22) ・「〈東郷村　」
・「〈足米□右衛門」 87×22×3 032

(23) ・「いたかき村」
・「惣右衛門　」 78×20×4 011

(24) ・「田煮しゆて、有」
・「たにしゆて、有」 117×24×3 051

(25) ・「いたかき村」
・「源左衛門　」 70×22×3 011

(26) 山室村」 (68)×22×2 019

(27) ・「〈末村〔啓カ〕□右衛門」 92×21×3 032

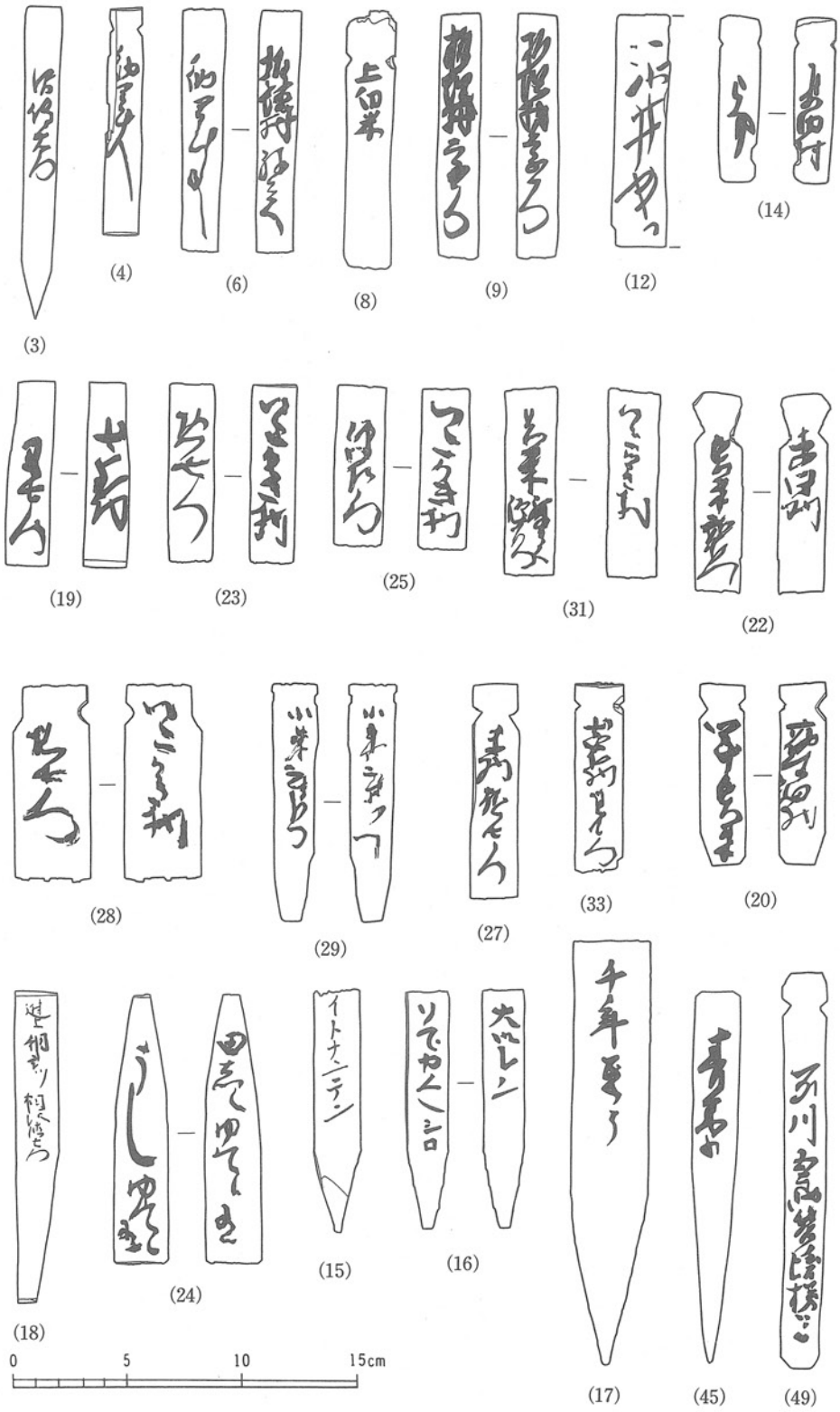
(28) ・「〈いたかき村」
・「〈惣右衛門　」 85×34×4 032

(29) ・「〈小米□」
・「〈小米□」 102×20×3 033

(30) ・〈東郷村
・〈□□〔孫左カ〕衛門 (80)×22×4 032

(31) ・「いたかき村」
・「足米孫兵衛源左衛門」 82×22×3 011

(32) ・〈いたかき村」
・〈惣右衛門　」 (87)×23×3 032


(3)
(4)
(6)
(8)
(9)
(12)
(14)
(19)
(23)
(25)
(31)
(22)
(28)
(29)
(27)
(33)
(20)
(18)
(24)
(15)
(16)
(17)
(45)
(49)
0
5
10
15cm

(33) 「〈山室村里右衛門」　82×21×4　032
(34) 〈末村□右衛門　(109)×21×4　032
(35) 「〈□」　91×23×4　032
(36) ・「〈□」
・「〈□」　77×25×4　032
(37) ・□」
・□」　(61)×(16)×3　019
(38) ・□」
・□」　(122)×12×2　019
(39) 〈□」　(89)×16×5　039
(40) 「□」　93×(13)×2　011
(41) ・□」
・□」　(46)×17×3　019
(42) 与介　(58)×26×8　081
(43) □　□
□〔紙カ〕本入　(345)×(94)×1　065
(44) ・「□」
・「□」　405×90×5　065

土坑六〇四

(45) 「青菊」　161×20×2　051
(46) 「□」　(110)×19×2　019
(47) 拾五匁」　(93)×19×11　061
(48) ・「□」
・「□」　(176)×12×5　059
(49) 「〈□〔前カ〕川五郎兵衛様□」　171×20×3　032
(50) 「花□」　63×36×2　021
(51) 「□□」　62×(13)×2　021

土坑七九一

(52) ・「八木小久」
・「□□　」　89×(15)×2　021

木簡の釈読にあたっては、福井大学の隼田嘉彦氏、福井県立博物館の笠松雅弘氏・山形裕之氏・澤博勝氏などのご教示を得た。

9　関係文献

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『第一三回発掘調査報告会資料』（一九九八年）

（本多達哉・河村健史）